

科目名	整形外科学Ⅱ						
科目名(英)	Orthopedic Surgery Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	福岡大学整形外科教室		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	整形外科の基礎知識、各種治療法、整形外科疾患について理解する。整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解し、臨床実習で必要な知識を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				整形外科疾患に関する基礎知識について説明できる。	
	○	○				整形外科における各疾患の成り立ちや臨床像を説明できる。	
	○	○				整形外科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				リハビリテーションにおいてセラピストが関わる整形外科疾患の治療実践を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院 参考文献:「標準整形外科学」(第12版) 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	骨折概論(骨折分類、治療、合併症)				基本的な解剖の復習	
	2	体幹の骨折 1 (上肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	3	体幹の骨折 2 (下肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	4	脊髄損傷				基本的な解剖と配布資料の復習	
	5	関節における外傷性疾患 1(捻挫(TFCC)、脱臼(肩・肘・股関節など))				基本的な解剖と配布資料の復習	
	6	関節における外傷性疾患 2(半月板損傷、他)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	7	末梢神経における外傷性疾患 1(神経損傷、神経麻痺(上肢・下肢))				基本的な解剖と配布資料の復習	
	8	末梢神経における外傷性疾患 2(末梢神経の外傷性疾患各論)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	9	腱・靭帯における外傷性疾患 1(筋・腱・靭帯の概論、腱板断裂、アキレス腱断裂)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	10	腱・靭帯における外傷性疾患 2(腱・靭帯損傷、足靭帯損傷)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	11	スポーツ障害(スポーツ障害の概論、急性・慢性のスポーツ外傷)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	12	熱傷、切断と離断(熱傷の病態、治療、切断・離断の原因、部位、義肢、その他)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	13	四肢の骨折(理学療法・作業療法との関連事項)				基本的な解剖と配布資料の復習	
	14	前期講義総括				定期試験に向けて講義資料の整理と復習	
15	前期講義総括				定期試験に向けて講義資料の整理と復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	内科学Ⅱ						
科目名(英)	Internal medicine Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	伊藤 実喜		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。又、テキストにはない、医療現場に役立つKnow-Howをレクチャー。学生さんに将来役立つテーマを発表形式で学習します。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					各疾患の特徴や病気の成り立ちを理解することができる。	
	○					医療現場の実情や新しい知見を知ることができる。	
	○					発表を通して、知識をつなげること、人に伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	血液・造血器疾患1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	血液・造血器疾患2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	代謝性疾患1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	代謝性疾患2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	内分泌疾患1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	内分泌疾患2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	腎・泌尿器疾患1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	腎・泌尿器疾患2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	膠原病・アレルギー疾患1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	膠原病・アレルギー疾患2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	感染症疾患1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	感染症疾患2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	中毒および環境要因による疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	皮膚疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)レポートを出します 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				10%
	レポート	○			○		10%
履修上の注意	居眠り学生には厳しく対応します。発表するときは大きな声でお願いします。国試対策として小問題プリントを行います。						

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurological Medicine Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ <神経内科学> 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症			教科書で予習しておく。		
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	認知症、記憶障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	神経内科における感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	伊藤 実喜		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。生命の不思議な働きを発表形式で学習します。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		△		作業療法士にとって必要な小児疾患の基本的知識を習得し、小児のリハビリテーションに応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	理学療法 作業療法専門基礎分野 小児科学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	小児科学概論					
	2	新生児・未熟児疾患・先天異常と遺伝病					
	3	神経・筋・骨系疾患					
	4	循環器疾患					
	5	呼吸器疾患					
	6	感染症					
	7	消化器疾患					
	8	内分泌・代謝疾患					
	9	免疫・アレルギー・膠原病					
	10	腎・泌尿器系・生殖器系・腫瘍性疾患					
	11	心身症・神経症・重症心身障害児					
	12	眼科・耳鼻科的疾患					
	13	まとめ					
	14	まとめ					
15	定期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	レポート	○	○		○		10%
履修上の注意	①授業中学生さんには質問しますので大きな声で答えて下さい。②グループ形式でテーマを発表してもらいます。③居眠り学生は退席させます。④国試対策として小問題プリントを行います。						

科目名	精神医学Ⅱ						
科目名(英)	Psychiatry Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	精神医学一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低知っておかなければならない事柄について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学一般の知識について説明できる。	
	○	○				精神疾患の精神病理、臨床像について説明できる。	
	○	○				精神疾患に対する治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 参考文献:精神科ポケット辞典(弘文堂)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	発達障害(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	2	発達障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	精神作用物質			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	てんかん(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	てんかん(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	器質性精神障害と症状精神病(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	器質性精神障害と症状精神病(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	精神機能検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	統合失調症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	感情障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	神経症性障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	治療とリハビリテーション(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	治療とリハビリテーション(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	これまでのまとめ1			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	定期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	老年医学										
科目名(英)	Geriatrics										
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美						
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○						
対象学科・学年	作業療法学科 2年										
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。リハビリテーションの場においても高齢者に関する知識がさらに重要となるであろう。この授業では老年医学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指し、臨床実習で応用できる力を身につけることを目的とする。										
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				老年医学一般の知識について説明できる。					
	○	○				老年期疾患の病理、臨床像について説明できる。					
	○	○				老年期疾患に対するリハビリテーションについて説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 老年学(医学書院)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	第1・2章 老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)					配布資料の復習				
	2	第3・4・5・6章 加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)					配布資料の復習				
	3	第7・8・9章 高齢者へのアプローチ					配布資料の復習				
	4	第10章 老年症候群					配布資料の復習				
	5	第11章 循環器1 第12章 呼吸器1					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	6	第12章 呼吸器2 第13章 消化器					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	7	第14章 骨・運動器 骨折・骨粗鬆症・変形性関節症					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	8	第15章 神経疾患 脳血管障害など					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	9	第16章 精神疾患 認知症とうつ					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	10	第17章 内分泌代謝疾患 第18章 血液免疫疾患					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	11	第19章 腎疾患 第20章 泌尿器疾患					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	12	第21章 皮膚口腔疾患 第22章 感染症					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	13	第23章 耳鼻科疾患 第24章 眼科疾患					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	14	第25～32章 高齢者を取り巻く環境・リハビリテーション					講義全体の資料整理と試験に向けての準備				
15	まとめ					講義全体の資料整理と試験に向けての準備					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%				
履修上の注意											

科目名	保健医療福祉制度論						
科目名(英)	Medical welfare System						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	仲野 悟		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。また、これから変化していく各制度の情報に耳を傾け、自ら学習していくといった意識を持つ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					リハビリテーションの診療報酬など作業療法士に関係する医療保険制度を説明できる	
	○					障害者手帳や障害者総合支援法に規定されるサービスを述べることができる	
	○					地域包括ケアシステムを説明できる	
	○					介護保険に規定されるサービスを述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	保険と年金の動向 財団法人 厚生統計協会 国民の福祉の動向 財団法人 厚生統計協会 参考文献:「厚生労働省ホームページ」(http://www.mhlw.go.jp/)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の概要			配布資料を使用し復習		
	2	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)			配布資料を使用し復習		
	3	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)			配布資料を使用し復習		
	4	リハビリテーション診療報酬			配布資料を使用し復習		
	5	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	6	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	7	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	8	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	9	リハビリテーション介護報酬			配布資料を使用し復習		
	10	リハビリテーション介護報酬			配布資料を使用し復習		
	11	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)			配布資料を使用し復習		
	12	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)			配布資料を使用し復習		
	13	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)			配布資料を使用し復習		
	14	年金制度			配布資料を使用し復習		
	15	まとめ			配布資料を使用し復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎					100%
履修上の注意							

科目名	基礎作業学実習Ⅱ						
科目名(英)	Occupation Based Overview ; Practice						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	青山 克実		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	作業科学、人間作業モデル、ICFを理論的基盤とし、評価から介入に計画のプロセスの中で、クライアントの作業をどのように分析していくのか、講義および演習・実習を通して学習する。また、実際に学生同士で作業ニーズの特定や分析、実際の作業療法プログラムを立案し、お互いに作業を通して介入する指導体験実習を実施する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			作業科学的視点(作業の意味、形態、機能)で人の作業を分析できる。		
	○	○			作業質問紙を用いて、人の生活や健康を促進する方法を分析できる。		
	○	○			作業を用いて人がどのように発達するのか説明することができる。		
	○	○			人の作業と生活・健康状態を分析できる。		
	○	○			作業鶴に関する自己評価改訂版を使って、人の作業ニーズの特定、分析、指導ができる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:長崎重信 監修:作業学, 作業療法学ワールド・マスター・テキスト2. マジカルビュー社, 2010. 山根寛:新盤 ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む, 三輪書店, 2017. 参考文献:吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう(作業科学入門). 医歯薬出版, 2008. 日本作業療法士協会:作業・その治療的応用 改訂第2版. 協同医書出版社, 2003. 小林夏子・福田恵美子:基礎作業学 第2版(標準作業療法学・専門分野). 医学書院, 2012. 石川齊, 古川宏 他:図解作業療法技術ガイド第3版. 文光堂, 2011.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	作業療法の中での作業を観る視点と枠組み【演習】作業の形態、機能、意味、バランス				Classi小テストの実施	
	2	作業を通じた生活の分析～作業に対する有能性、価値、興味【演習】作業質問紙				Classi小テストの実施 作業質問紙に関するレポート作成	
	3	作業の治療的応用とその効果(作業の用い方)				Classi小テストの実施	
	4	作業分析とは…包括的作業分析と思考プロセス				Classi小テストの実施	
	5	包括的作業分析～事例を通じた演習【包括的作業分析シート】				Classi小テストの実施 包括的作業分析シートの作成	
	6	作業分析実習(グループ課題)～運動とプロセス技能【MOHOST】				Classi小テストの実施 包括的作業分析シートの作成	
	7	作業分析実習(グループ課題)～コミュニケーションと交流技能【MOHOST】				Classi小テストの実施 包括的作業分析シートの作成	
	8	作業分析実習(グループ課題)～意志・習慣化・遂行能力(心身機能)・環境【MOHOST】				包括的作業分析シートの作成	
	9	指導法と指導体験実習ガイダンス				Classi小テストの実施	
	10	指導法体験実習				指導体験レポートの作成 包括的作業分析シートの作成	
	11	指導法体験実習				指導体験レポートの作成 包括的作業分析シートの作成	
	12	指導法体験実習				指導体験レポートの作成 包括的作業分析シートの作成	
	13	指導法体験実習				指導体験レポートの作成 包括的作業分析シートの作成	
	14	指導法体験実習				指導体験レポートの作成 包括的作業分析シートの作成	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○	○			70%
	小テスト・レポート	○	○	○	○		30%
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅱ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	作業療法のアプローチを行う上で必要なことは、対象となるクライアントのすることを知ることである。その為には身体的・精神的・社会的な情報を、直接的・間接的に収集し統合し、解釈しなければならない。この授業では、主に身体的な情報を集める為の技術を身に付ける。そしてその集めたデータがクライアントの生活にどう結びついていくのかを考える。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			目標		
	○	○			作業療法評価の目的と流れを説明することができる。		
	○	○	○	○	作業療法評価法の様々な種類を説明できる。		
	○	○			作業療法評価を実際に行うことかできる。		
					評価結果から得られたデータが実際の生活にどう影響しているかを説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1. 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 2. 臨床での測定精度を高める ROM測定法 メジカルレビュー社 3. 新・徒手筋力検査法 協同医書出版 4. 神経診察クローズアップ メジカルビュー社 5. 知覚をみる・いかに 手の知覚再教育 協同医書出版 6. 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 メジカルビュー社 7. 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 8. ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか きょうざれん/ 南文社 9. 国際生活機能分類 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 総論					
	2	・身体計測 ・バイタルサイン			配布プリントを復習し、実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。		
	3	・関節可動域測定① オリエンテーション、上肢(肩) ・関節可動域測定② 上肢(肩、肘、前腕)			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	4	・関節可動域測定③ 上肢(前腕、手関節) ・関節可動域測定④ 上肢(前腕、手関節)			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	5	・関節可動域測定⑤ 上肢(指) ・関節可動域測定⑥ 上肢(指)			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	6	関節可動域測定⑦ 上肢(上肢全般の復習) ・関節可動域測定⑧ 下肢(股関節)			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	7	・関節可動域測定⑨ 下肢(膝) ・関節可動域測定⑩ 下肢(足関節)			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	8	・関節可動域測定⑪ 体幹 ・関節可動域測定⑫ 体幹			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	9	・徒手筋力検査法① 上肢 ・徒手筋力検査法② 上肢			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	10	・徒手筋力検査法③ 上肢 ・徒手筋力検査法④ 上肢			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	11	・徒手筋力検査法⑤ 上肢 ・徒手筋力検査法⑥ 上肢			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	12	・徒手筋力検査法⑦ 下肢 ・徒手筋力検査法⑧ 下肢			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	13	・徒手筋力検査法⑨ 下肢 ・徒手筋力検査法⑩ 体幹			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。		
	14	・徒手筋力検査法⑪ 体幹 MMT全体の復習 ・握力・背筋力など器具を使った筋力測定			実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。		
	15	実技練習			筆記試験と実技試験は2回に分けて行う。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)(実技)を各1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	定期試験(実技)	◎	◎	◎	◎		40%
履修上の注意							

科目名	身体障害作業療法学									
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction									
単位数	4	時間数	60時間	担当者	老川 良輔					
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	作業療法学科 2年									
授業概要	作業療法士の関わる身体障害領域について、その対象、目的、プロセス、介入について学習する。身体障害各論で、運動、感覚、関節可動域、筋緊張が障害された状態を学習する。疾患別の導入として、脳血管障害の障害像とその作業療法について学習する。									
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:	△	※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				身体障害領域において作業療法士に求められる役割を説明することができる。				
	○	○				作業療法の実施過程を説明することができる。				
	○	○		○		各身体機能が障害された状態と、それに伴う作業の障害についてディスカッションできる。				
	○	○				脳血管障害の障害像、急性期・回復期・生活期作業療法の違いを説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	①ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学(MEDICAL VIEW)②身体領域の作業療法 第2版(中央法規)③図解 作業療法技術ガイド(文光堂)④病気が見える vol.7 脳・神経(メディックメディア) ⑤オリジナルテキスト									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	授業オリエンテーション (何のためにこの科目を学ぶのか、授業の受け方) 総論① (身体障害領域の作業療法とは、歴史、ICIDHとICF)				まとめプリントを使用して復習しておくこと				
	2	総論② (身体障害領域の作業療法の実施過程、アプローチの方向性) 【障害別】各論 関節可動域制限① (関節可動域制限とは、分類、発生要因)				まとめプリントを使用して復習しておくこと				
	3	【障害別】各論 関節可動域制限② (作業との関連、作業療法:回復モデル) 【障害別】各論 関節可動域制限③ (作業療法:代償モデル、習得モデル、維持)				まとめプリントを使用して復習しておくこと 総論①②の小テストを行うため、準備をすること				
	4	【障害別】各論 筋力・筋持久力低下① (筋力・筋持久力低下とは、発生要因) 【障害別】各論 筋力・筋持久力低下② (作業との関連、作業療法:回復モデル)				まとめプリントを使用して復習しておくこと 関節可動域制限の小テストを行うため、準備をすること				
	5	【障害別】各論 筋力・筋持久力低下③ (作業療法:代償モデル、習得モデル、維持)				まとめプリントを使用して復習しておくこと				
	6	【障害別】各論 感覚障害② (感覚障害による上肢の機能障害) 【障害別】各論 感覚障害③ (作業療法:回復モデル、代償モデル)				まとめプリントを使用して復習しておくこと 筋力低下の小テストを行うため、準備をすること				
	7	【障害別】各論 筋緊張① (筋緊張異常とは、評価) 【障害別】各論 筋緊張② (作業療法:回復モデル、作業の視点)				まとめプリントを使用して復習しておくこと 感覚障害の小テストを行うため、準備をすること				
	8	【障害別】各論 失調症① (失調症とは、分類、小脳性運動失調、臨床症状) 【障害別】各論 失調症② (作業療法:回復モデル、作業の視点)				まとめプリントを使用して復習しておくこと 中間試験《第1回～6回の内容》の準備を行うこと				
	9	【疾患別】各論 脳血管障害① (分類、TIA、脳出血) 【疾患別】各論 脳血管障害② (クモ膜下出血、AVMに伴う頭蓋内出血、脳梗)				まとめプリントを使用して復習しておくこと				
	10	【疾患別】各論 脳血管障害③ (意識障害、運動障害) 【疾患別】各論 脳血管障害④ (麻痺の回復過程とブルンストロームステージ)				まとめプリントを使用して復習しておくこと				
	11	【疾患別】各論 脳血管障害⑤ (感覚障害、高次脳機能障害などその他の症状)				まとめプリントを使用して復習しておくこと 脳血管障害の小テストを行うため、準備をすること				
	12	【疾患別】各論 脳血管障害⑦ (予後予測) 【疾患別】各論 脳血管障害⑧ (急性期の作業療法評価)				まとめプリントを使用して復習しておくこと				
	13	【疾患別】各論 脳血管障害⑨ (急性期の作業療法、弛緩性麻痺の管理) 【疾患別】各論 脳血管障害⑩ (機能回復訓練、ADL訓練)				まとめプリントを使用して復習しておくこと				
	14	【疾患別】各論 脳血管障害⑪ (IADL訓練、QOLへのアプローチ、退院支援) 【疾患別】各論 脳血管障害⑫ (生活期の作業療法)				まとめプリントを使用して復習しておくこと 定期試験《第7回～14回の内容》の準備を行うこと				
15	中間試験(6回まで終了時に実施:別時間で設定) 定期試験				まとめプリントを使用して復習しておくこと					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5～6回実施する。(2)中間試験(筆記)、定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%			
	小テスト	◎	◎				20%			
履修上の注意										

科目名	発達障害作業療法学						
科目名(英)	Occupational Therapy for Developmental Disorders						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	竹中 祐二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	発達障がい領域の作業療法を展開するうえで必要な人間発達学を基盤とした関連知識を統合し、本人や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりのできる作業療法士を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の理念、目的、役割を説明することができる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の流れを説明することができる。	
	○	○				代表的障害(発達障害、脳性まひ、摂食嚥下障害)について臨床像を説明することができる。	
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:長崎 重信監修、作業療法学7 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学、メジカルビュー社 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]、三輪書店 細田多穂、人間発達学テキスト、三輪書店						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの発達と作業療法 姿勢・運動発達			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	2	子どもの発達と作業療法 感覚統合機能の発達、認知・思考機能の発達			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	3	子どもの発達と作業療法 コミュニケーション機能の発達、子供の発達と遊び、セルフケアの発達と遊び			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	4	評価 発達障害領域の作業療法評価			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	5	評価 発達障害領域の作業療法評価			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	6	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	7	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	8	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	9	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチに対するアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	10	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	11	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	12	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	13	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	14	治療的アプローチ 摂食嚥下障害に対する作業療法			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意	発達障害を持つ子どもと家族を理解する基本的な視点、姿勢を身につけてほしい。						

科目名	精神障害作業療法学 I						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder I						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	①精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を知る ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する ④精神科作業療法の構造・要素を理解する ⑤精神障害特性・モデルと回復過程を理解する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を説明できる。	
	○	○				精神保健・福祉領域における法律・施策を説明できる。	
	○	○				精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を説明できる。	
	○	○				精神科作業療法の構造・要素と、精神障害特性・モデルと回復過程を説明できる。	
○	○		○			インテーク面接を実践でき、評価結果をまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:①香山 明美 他編:精神障害作業療法-生活を支援する-。医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)富岡 詔子他編集 日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書)。協同医書出版社 2)石井 良和他編:精神障害領域の作業療法。中央法規 3)屋田 源四郎著:統合失調症患者の行動特性。金剛出版 4)松井 紀和編著:精神科作業療法の手引き。牧野出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 精神障害者処遇の歴史及び精神医学の発展			見学実習での精神科での疑問などをまとめる。		
	2	日本の精神医学の歴史 精神障害者支援に関わる法・制度			小テストのために復習を行う。		
	3	精神障害における生活障害と障害特性			小テストのために復習を行う。		
	4	精神疾患の成り立ちと機能障害			小テストのために復習を行う。		
	5	作業療法の構造と実践形態			小テストのために復習を行う。		
	6	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入)			面接演習のための準備を行う。		
	7	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入・インテーク面接実習)			面接演習の結果をまとめ、レポートを作成する。		
	8	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価)			小テストのために復習を行う。		
	9	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価) 精神障害作業療法の実践(目標の設定と作業療法計画)			小テストのために復習を行う。		
	10	回復過程における作業療法の実践			小テストのために復習を行う。		
	11	回復過程における作業療法の実践			小テストのために復習を行う。		
	12	精神障害作業療法に関連する理論・モデル・技法			小テストのために復習を行う。		
	13	事例検討(グループワーク)			事例検討のまとめ作業を行う。		
	14	事例検討(グループワーク)			事例検討の結果をまとめレポートを作成する。		
15	前期の振り返り(別時間に設定)						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	ADL						
科目名(英)	Activities of Daily Living						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	原田 芳美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	人の生活におけるADLの位置づけを知り、特に身体障害領域で用いる ADL評価について教授する。 また、ADLにおける具体的支援の基本知識と技能についても実技を通して学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ADLの定義と分類を整理し説明することができる	
	○	○				ADLの各過程、遂行するための心身機能や環境因子について説明することができる	
	○	○				ADL評価で用いるFIMとBIIについて理解し、評価することができる	
	○	○				OSCEを用いてADLの技能を修得することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 酒井ひとみ編集、社団法人 日本作業療法協会 監修 作業療法学全書第11巻「作業療法技術学3日常生活活動」、協同医書出版社 2) 才藤栄一: 臨床技能とOSCE. 金原出版株式会社 参考文献: 1) 藤井浩美: 日常生活活動の作業療法. 中央法規 2) 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイダンス					
	2	日常生活活動の概念と作業療法の役割			配布プリントの復習		
	3	日常生活活動の問題点と援助の視点(食事、排泄、移乗)			配布プリントの復習		
	4	日常生活活動の問題点と援助の視点(更衣、整容、入浴)			配布プリントの復習		
	5	日常生活活動の問題点と援助の視点(コミュニケーション、健康管理、家庭生活、社会生活)			配布プリントの復習		
	6	身体障害分野における日常生活活動の評価(総論)			配布プリントの復習		
	7	身体障害分野における日常生活活動の評価(各論)			配布プリントの復習 小テストのための学習		
	8	日常生活活動制限に対する作業療法援助法 小テスト			配布プリントの復習		
	9	移乗動作に対する介入技能			配布プリントの復習 配布資料を授業前に読む		
	10	移乗動作に対する介入技能			配布資料を授業前に読む 配布プリントの復習		
	11	食事動作に対する介入技能			配布資料を授業前に読む 配布プリントの復習		
	12	更衣動作に対する介入技能			配布資料を授業前に読む 配布プリントの復習		
	13	更衣動作(上衣)に対する介入技能			配布資料を授業前に読む 配布プリントの復習		
	14	更衣動作(下衣)に対する介入技能			配布資料を授業前に読む 配布プリントの復習		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意							